

北海道医報購読料年間3,000円。北海道医師会員にあっては会費の中に含まれています。

あとがき

内視鏡はリニューアル中です



ホッとひといき

情報広報部長 中川 俊男

新設の情報広報部の初代部長に指名され、この欄の責任者になった。敬意を表する意味を込めて「内視鏡」を永久欠番にした。前任者があまりにも偉大な業績を残されたので気が重い。波風を立てないで責任を回避する手立てを現在思案中である。

さて、3月30日の第108回日本医師会代議員会で、北海道ブロックの代表質問をする機会をいただいた。遅々として進まない世代交代を推進して医師会を活性化し組織力を強化するために、日医執行部と代議員の「70歳定年制」を提案した。この定年制には、「辞めさせられた」、「確執があって選挙で負けた」というような長年医師会活動に功績のあった役員に傷を負わせず、また同時に本人も納得して退任するという「花道」としての機能もある。幸いなことに、日医では定款諸規定検討委員会を設置して検討を開始するという。

思い返せば10数年前、札幌市医師会の委員会に参加し始めた頃、先輩方の「今期で辞める」、「若い先生方に道をゆずらなくては」といった潔い言

葉が、特に宴席で飛び交っていた。「医師会という組織は、なんと大人の分別をわきまえた所なのだろう！」「医師の先輩方はさすがだなあー！」と。ところが、役員改選の半年前からその声はまったく聞こえなくなった。また、その時期から改選までの期間に開かれる会議が急に和やかになることにも気がついた。改選が終わってみれば、並んでいるのは見慣れたニコニコ顔ばかり。「そうか、ここはとっても平穩無事な世界だったんだ。」「医師会の『辞める』は『こんにちは』と同じなんだ。」

ところで、医師会の役員で進退を口にする人は、次の5つに分類される；

- A：本当に辞める人。
- B：辞める気はまったくないが、慰留されて嬉しくなりたい人。
- C：なんとなく言ってみたい人。
- D：体調でも悪くならない限り辞めるつもりがない人。
- E：その他。

こんな悪態をついている私も6月に52歳になるが、このままだとD群に分類されそう。医師会への想い入れが強い人ほどD群に入会する確率が高くなるのが厄介だ。A群に分類される人はめったにいない。一方でB群とD群の会員数はかなり多い。C群に入るのはかなり危険だということあまり知られていない。本人が窓際にいる場合は言質となる。

しかし今の医療現場は、こんなほのぼのとした世界を楽しんでいる環境にはない。サダム・フセイン政権が崩壊し、古くはチャウチェスク大統領を思い出す。長期政権を続け世代交代がない組織は弱体化し崩壊への道をたどる。日本の医療制度が取り返しのつかないものに変容させられようとしている今、医師会が21世紀にも存在価値を維持し続けることができるかどうか。それは、世代交代が進み若い会員に魅力ある組織に生まれ変わることができるかにかかっている。